

狭山エリア新聞

【問合せ先】ASA 狭山

Tel: 04-2952-2246

【発行所】狭山エリア新聞編集室

Tel: 049-265-1886

Fax: 049-265-1887

【記事提供】狭山CATV

狭山市駅西口再開発地区「スカイテラス」のまちびらき

3月25日(木)、狭山市駅西口再開発地区愛称「スカイテラス」のまちびらきが行われました。

再開発地区は、1街区と2街区に分かれており、今回は、1街区完成の施設、店舗、道路や駅舎の供用開始に伴い、まちびらきが行われたものです。はじめに、狭山太鼓連による太鼓がオープニングを飾り、この事業の施工者である独立行政法人都市再生機構埼玉地域支社主催による竣工式典が、権利者、県、市の関係者および100名が参列する中行われました。式典では、地元の市立入間川東小学校の児童からの記念メッセージが紹介されました。これは、今回の竣工にあたり「狭山のここが好き」「こんな狭山にしたい」というテーマで募集したもので、この日は、その優秀作品が表彰されました。このメッセージは、今後工事の扉などを利用して掲示される予定です。



その後、主催者、市長、権利者などによりテープカットが行われました。

式典終了後、3月26日から利用開始の駅舎の東西自由通路のシャッター開場式が行われました。開場にあたり、狭山市駅の歩みが簡単に紹介され、仲川狭山市長、中村市議会議長、西武鉄道(株)白山専務がシャッターボタンを押し、開場、その後、施設見学が行われました。

また、今回スカイテラスにオープンする公益施設棟、産業労働センターで開所式が行われ、仲川狭山市長、中村市議会議長、埼玉労働局長などが挨拶をし、テープカットが行われました。この施設は、就労支援、産業界情報、光情報の発信基地として利用されます。午後からは、駅前広場で、狭山市主催のまちびらき記念イベント「スカイフェスタ」が行われました。ステージイベントでは、地元の菅原囃子連が祝い獅子でオープニングを飾り、創立60周年と狭山市で1番歴史のある入間川幼稚園の園児達の合唱、障害者支援施設利用者が構成される大樹バンド、狭山警察による寸劇、入間川東小学校マーチングバンドの演奏などが披露されました。途中、中心市街地のキャラクターおりひびも飛び入り参加。そのほか、

「不老川をきれいにする会」緑綬褒章受賞記念祝賀会

3月28日(日)、東武サロンで「不老川をきれいにする会」緑綬褒章受賞記念祝賀会が行われました。

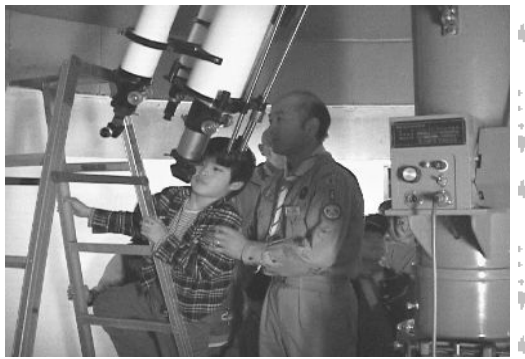
これは、同会が昨年の11月に社会福祉分野やボランティア活動などで顕著な実績のある方達に贈る「緑綬褒章」を受賞したことから行われたものです。不老川は東京都瑞穂町を源流に、県内の入間、所沢、狭山各市を経て、川越市で新河岸川に合流する川です。昭和40年頃、流域の急激な都市化で水質悪化が進み、1983年から3年連続で日本一汚い川となりました。同会は「昔のような清流へ蘇らせたい」という思いから市内流域自治会を中心に昭和60年に発足。河川パトロール・クリーン作戦、さらには子ども達への環境教育など幅広い活動に取り組みんでいます。現在、不老川は清流間

女子サッカーチーム「ASエルフェン狭山FC」や、狭山市文化団体連合会による狭山の民話を紹介する民謡や劇、ジャズダンスの発表なども行われました。ステージのまわりには15のブースが出店し、それぞれ特色ある食べ物や手作り品などを販売したほか、農業者により地域特産の里芋コロッケなども販売され、いずれも長蛇の列がでるほどの人気でした。商業棟内の店舗も一部オープンし、記念販売にも多くの人が集まりました。この日は、朝からあいにくの雨降りとなりましたが、駅周辺は大変な賑わいを見せ、およそ5000人が来場しました。また3月26日の午前4時30分には、駅前の狭山市駅上諏訪線、霞野線の信号の点灯式も行われ、いままでも一方通行であった霞野線も交互通行に変わりました。西武鉄道については、終電から始発までの間に改札の移動も行われ、26日始発から、橋上駅舎の利用も開始され、東西自由通路も東口の一部を除き供用が開始されました。3月26日には、新しい駅や駅前施設を一目みようと多くの人が訪れ、歩行者デッキを使って、駅周辺を回遊する姿が多くみられました。

狭山市中央児童館で天体観測「星空を見よう」

3月13日(土)、狭山市中央児童館で「星空を見よう」が行われました。

これは毎月第2、第4土曜日の午後5時から7時まで行われているもので、家族間のコミュニケーションの場の提供と天体観測への関心を深めてもらうことを目的に始まりました。前半は、プラネタリウム室で星空の解説が行われ、後半は、観望室で天体観望会が行われました。



星空の解説では、ボランティアの江原 稔さんが、冬に観測できる星や、星座、この日観測することのできる星について話し、そして、プラネタリウムを見ながら冬の星座の話が紹介されました。後半の天体観望会では、同館のプラネタリウム作りのぬいぐるみやアクリルサリ、衣類、家庭用品、日用雑貨など多くのものが販売されていきました。その他、手作りの布ぞうりの販売もあり多くの人の目を引いていました。各自治会の模擬店では、焼きそばやフランクフルト、イカ焼き、豚汁などが販売されていました。また、菅原囃子連によるお囃子も披露され

「親子でも楽しめますので是非参加して欲しい」と職員は話しました。この企画の開始時刻は4月から10月までの間は、午後6時からとなります。「親子でも楽しめますので是非参加して欲しい」と職員は話しました。会場を盛り上げました。

